

ける船員一同の悲壯の光景は眞に鬼神を泣かしむるの概あり。殊に本船員の如きは實に我海運護國の神體なるを想はしめたり。此外直接の使命に至りては自ら其趣を異にする處ありと雖も家族の慘禍に對する苦悶に關しては同一事情の下にある海員果して幾千なりや殆ど計り知る可らざるものあり。平素家庭の主人として將た又扶養義務者として職を海上に奉ずる海員の家族が主人の留守中に於て今回の如き突發的大變災に襲はれ周圍の危険、人心の恐怖に加ふるに饑餓、缺乏等ありと凡ゆる困苦に攻めらるゝ境涯が如何に心細きかに就ては門外者の到底夢想だにも思ひ及ばざる處なり。斯の如き境遇に關し多年の體驗を有する日本海員組合及海友婦人會は直覺的に罹災海員家族緊急救護斷行の必要を感じ、萬難を排し一同國難に處するの覺悟を以て即時斷行に着手せり。事業開始以來十月三十日に至る期間に於ける經過概要左の如し。

但當時混亂繁劇の際海員家族中本團救護の及ばざる處多々あることは深く遺憾とする處なり。

應急救護先發員橫濱急派

九月一日突發せる震災の凶報は一回一回を重ねる毎に益々世人を震駭戰慄せしめ愈々其慘害の尋常一様ならざること明白となりたるを以て、日本海員組合は横濱支部及同地方に在住する海員家族の安否を突き留むべく九月二日（伏見丸出帆當日）神戸出帆の救護船山城丸にて應急救護先發員として常務員赤崎寅藏及横山孫作兩氏は必要の食料を携帯し横濱に急行せり。

非常震災海員家族救護團の組織と活動

横濱市街及埠頭全部潰滅焼失し秩序紊亂して危険極まりなく食糧欠乏して罹災者の饑渴目睫の間に迫れりこの悲報益急を告げたるを以て今は一刻も猶豫すべきにあらずと爲し日本海員組合は即時に金五千圓の寄附金を得て九月二日の夕景直に緊急的救護品として煮沸を要せざる食料品及藥品、綿布、裁縫用具其他必要品の調達に着手せり。

今回の如き非常大震災に際し徹底的に海員家族を救護せんとするには、非常の